



「ふるさとを愛し、
生きていく力を育む萩っ子」の育成を目指します

言葉の力

校長 河村 康郎

10月末から3年生を対象に校長面接を行ってきました。その中で「あなたの通っている学校の自慢できることはなんですか？」と質問しました。答えの多くは「校舎がとてもきれいなところですよ。」その理由を問うと「生徒が一生懸命掃除しているからです。先輩方が綺麗に受け継いできた校舎を後輩に残したいからです。」といった答えがありました。他には「あいさつがよくできることです。」「生徒会本部役員の人たちがあいさつ運動をしてくれているからです。」という答えがかえってきました。昨年の3年生とも、まったく同じやり取りがありました。これが萩中の伝統なんだなとしみじみと感じました。

しかし、今年は新たな答えがありました。それは「校舎がバリアフリー化されているところです。」というものでした。「なぜ自慢できるのですか？」と問うと「廊下に手すりがあったり、バリアフリートイレがあったり、一人一人を大事にしている学校で、こんな学校に通えていることがうれしいからです。」というものでした。夏からの工事で、北棟校舎のトイレも使えずに、生徒に不自由な思いをさせて、申し訳なかったなと思っていたところに、この答えを聞いて、心が洗われるような気持ちになるとともに、すごくあたたかい気持ちになりました。言葉の力を感じました。

言葉は使い方によって、相手を喜ばせることもできますが、相手にとって凶器となることもあります。体育祭や合唱祭、ロードレース大会のとき、仲間から応援された声やかけられた言葉によって、力に変わったという人もいます。逆に人からかけられた言葉によって傷ついた人もいるかもしれません。それだけ、言葉には大きな力があるのです。今の時代、口から発した言葉だけではなく、SNSで発信した言葉も相手に大きな影響を与えます。皆さんは自分が発した言葉で相手をどのような気持ちにさせたいと思いますか。

校長面接の際に「あなたの好きな言葉はなんですか」と聞いたときに「ありがとうございます」と答えた人がいました。その理由を聞くと「ありがとうございますと言われると、すごくいい気持ちになるので好きです。自分でも言うようにしています。」という答えがかえってきました。

身近な言葉からでもいいと思います。相手にとってプラスの力になる「言葉の魔法」をつかえるような萩中生になってほしいと思っています。

☆保護者の皆様へ

2023年もお世話になりました。振り返ると、5月から新型コロナが5類に移行されたこと、インフルエンザが大流行したこと、新たな兆しが見えた年でした。2024年もよろしくお願ひいたします。よいお年をお迎えください。

